

**令和7年度第3回  
奈良県文化創造ギャザリング  
2026.3.23**

## 【本日も意見をいただきたい項目】

- ・奈良県立美術館の活動方針について

## 【参考】美術館整備基本計画策定までのスケジュール（予定）

- 令和7年度第1回、第2回、第3回（本日）のギャザリングでのご意見を参考に、**令和7年度中に整備基本構想を策定**  
↓
- 令和8年秋頃**、奈良春日野国際フォーラムの施設調査実施後、**ギャザリングを開催**し、整備場所、事業内容にかかるご意見をいただきたい  
↓
- 令和8年12月頃、整備基本計画素案策定  
↓
- 令和9年1月頃、整備基本計画にかかるパブリックコメントを実施  
↓
- 令和9年2月頃**、**ギャザリングを開催**し、パブリックコメントでのご意見を踏まえた整備基本計画（案）にかかるご意見をいただきたい  
↓
- 令和9年3月頃、**整備基本計画を策定**

## 本資料の構成

奈良県立美術館再整備・基本理念見直しに向けた検討	4
奈良県立美術館再整備・基本理念見直しのポイント	
①新・奈良県立美術館の方向性	6
②新・奈良県立美術館の活動方針	8
③新・奈良県立美術館の体制	12
I 美術館再整備の基本理念	13
II 美術館の事業活動	15
活動方針① 奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てる【調査研究、収集・保存】	17
活動方針② 県民が多様な芸術文化と出会う【展示】	19
活動方針③ 県民の芸術文化活動の拠点になる【教育普及】	20
活動方針④ 奈良県の芸術文化を通じて世界につながる【対話と連携】	21
活動方針⑤ 奈良県の芸術文化から新たな価値を創造する【価値創造】	23
補足資料	25

## 第3世代までの特徴

各世代の特徴を簡易的に表現すると、以下の通りとなる。

世代	中心概念	空間の特徴	社会との関係
第1世代	・収集・保存	・箱としての博物館	・権威的
第2世代	・鑑賞・教育	・ホワイト・キューブ	・公教育
第3世代	・参加・体験	・ホワイト・キューブ + 活動スペース	・地域社会と連携

### [第1～第3世代の美術館の傾向]

美術館の存在は、広く社会に対して開かれ、より多くの人々に親しまれる方向に進んでいる

## 第4世代美術館の方向性

これまでの美術館は、広く社会に対して開かれ、より多くの人々に親しまれる方向に進んでいる

### 国の文化施策の方向

「文化芸術振興基本法」から「文化芸術基本法」改正の趣旨（平成29年施行）

1. 文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むこと
2. 文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用すること

「博物館法」改正に伴う変更事項（令和5年施行）

- 博物館法の目的について、社会教育法に加えて文化芸術基本法の精神に基づくことを定める【第1条】。
- 博物館の事業に博物館資料のデジタル・アーカイブ化を追加するとともに、他の博物館等と連携すること、及び地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り地域の活力の向上に取り組むことを努力義務とする【第3条】。

第4世代の美術館とは、固定的な段階ではなく、常に進化し続けようとする姿勢そのものを指す。時代の要請や国の方針に応じて、今後も変化し続けていく美術館像を目指すべきである。

文化芸術基本法の趣旨、博物館法の改正をとらえ、第4世代の美術館には、右のような方向性が求められる

- ① 地域社会と連携し、未来を共創する役割を担う
- ② 館内、地域全体、インターネット上を含めたフィールドで展開
- ③ 未来を創造する活動を展開するハブとなる

# 奈良県立美術館再整備・基本理念見直しのポイント①新・奈良県立美術館の方向性

## 第4世代の美術館の方向性 (P5参照)

①地域社会と連携し、  
未来を共創する役割  
を担う

②館内、地域全体、イン  
ターネット上を含めた  
フィールドで展開

③未来を創造する活動を  
展開するハブとなる

### これまでのギャザリングでのご意見

#### ■新美術館の方向性

- ・美術館らしい施設を脱却し、新しいあり方を探る
- ・「歴史ある奈良だからこそ」の視点から「奈良から世界に発信する」ことを目指す
- ・学習支援やインクルーシブ・プロジェクトは重要な視点
- ・文化施設、大学、奈良公園内の社寺との連携

#### ■新美術館の展示の考え方

- ・「鑑賞」に加え、作品が作られた背景も重要
- ・常設展示を奈良ならではのコレクション展示とする
- ・書道・墨や文字に関わるアート、漫画なども対象に含む

#### ■新美術館の機能

- ・幅広いアートに対応できる柔軟性のある場が必要
- ・ゆっくりと過ごせる場、「深い消化」のできる場
- ・夜間も楽しめる仕掛け、早朝の奈良公園の魅力の活用
- ・日本食の起源も含めた新しい展開

### こどもまんなかクラブのご意見

- ・芸術は知識がなくても楽しめる、気軽に楽しめる、ということが伝わる美術館になってほしい。
- ・学生など美術館職員以外の方が企画や広報にかかわる美術館、自分以外の人の作品を見た感想も知りたい。
- ・美術館が作品を見て楽しんで終わるのではなく、見て自分で考える場になれば良い。
- ・見るだけでなく五感で体験できる場所になると行きたくなる。
- ・体験できる美術館、作品を制作できるワークショップ、自分が作ったものを飾ってもらえればうれしい。
- ・「体験」とは、「誰かと一緒に創る」または「1人で創る」こと、そして自分の中で楽しかったなという思い出が残ることだと思う

上記①～③の第4世代の美術館の方向性に、これまでのご意見を付加して、新美術館の方向性を検討

## 新たな 奈良県立美術館 の方向性

①奈良が有する多様な資源を美術館活動に取り込み、新たな視点を加えることで、未来に向けて価値の拡大を図る

②奈良公園・社寺などの歴史的フィールドとデジタル空間を活用し、館外・地域・世界へ活動を広げる

③文化施設・教育・産業など多様な主体と協働し、奈良の未来価値を生み出す共創の中核となる

# 奈良県立美術館再整備・基本理念見直しのポイント①新・奈良県立美術館の方向性

国内の主要な美術館では、社会の変化や時代のニーズを踏まえてリニューアルを行うことで、歴史を継承しながらも新しいイメージを付与し、**脱皮・進化を繰り返している。**

→奈良県立美術館は1970年代の機能のままであり、飛躍的なアップデートを図る必要がある。

1950年代以前から1960年代	1970年代から1980年代	1990年代～2000年代	2020年代以降
東京府美術館（1926）	→東京都美術館（1975）	→東京都美術館（2012） <b>リニューアル</b> →新設 東京都現代美術館（1995） → <b>リニューアル</b> （2019）	
神奈川県立近代美術館（1951） →増築（1966）	→増設 別館（1984）	→新設 葉山館（2003） →鎌倉別館 <b>リニューアル</b> （2019）	
和歌山県立近代美術館（1952）		→移転（1994）	
長野県立信濃美術館（1966）			→移転、長野県立美術館に <b>名称変更</b> （2021）
	兵庫県立近代美術館（1970）	→改修 横尾忠則現代美術館 →移転 兵庫県立美術館（2002）に <b>名称変更</b>	
	鳥取県立博物館（1972）		→新設 鳥取県立美術館（2025）
	<b>奈良県立美術館（1973）</b> →増築（1979）	→改修（1995）	
	千葉県立美術館（1974）	→改修（2000）	→ <b>リニューアル</b> （予定）
	大分県芸術会館（1977）	→新設 大分県立美術館に <b>名称変更</b> （2015）	
	山梨県立美術館（1978）		→新たな価値を生み出す <b>ビジョン</b> （2023）
	宮城県美術館（1981）	→増設 佐藤忠良館（1990）	→ <b>リニューアル</b> （2026予定）
	富山県立近代美術館（1981）	→移転 富山県立美術館に <b>名称変更</b> （2017）	
		熊本市現代美術館（2002）	→ <b>リニューアル</b> （2021）
		金沢21世紀美術館（2004）	→ <b>リニューアル</b> （予定）
		横須賀美術館（2007）	→ <b>リニューアル</b> （予定）

# 奈良県立美術館再整備・基本理念見直しのポイント②新・奈良県立美術館の活動方針

基本理念：歴史と未来をつなぐ**奈良県立美術館 4+**（フォープラス）  
奈良の歴史文化を未来へつなぐ**第4世代のその先**を目指します

## 【新たな美術館の3つの使命（ミッション）】

「みいだす」

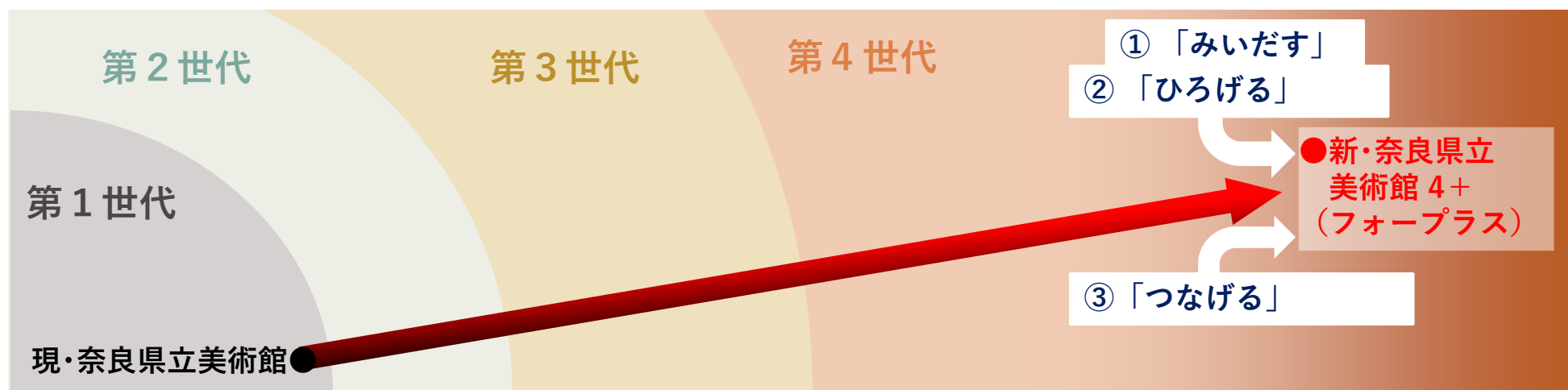
- ①奈良の文化資源から「未来価値」を創出する活動の推進

「ひろげる」

- ②奈良独自のフィールドを活かし、美術館の外へ活動を展開

「つなげる」

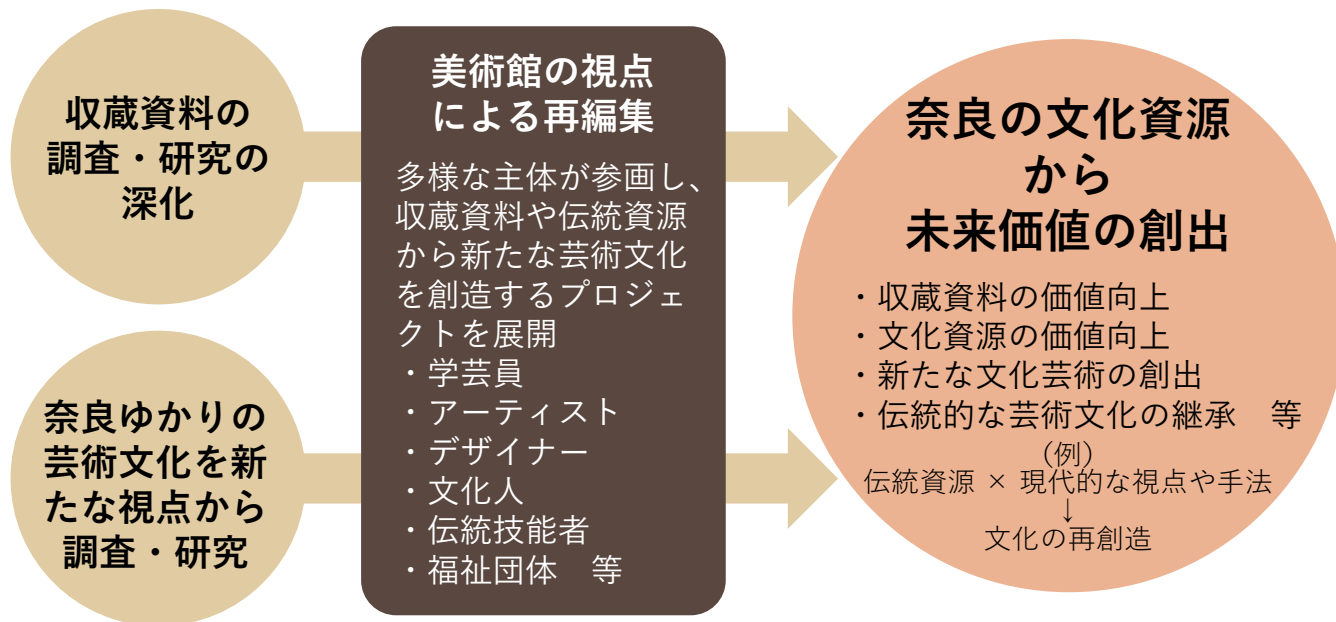
- ③多様な主体と連携し、ともに奈良の未来を創る活動



## 「みいだす」

### ①奈良の文化資源から「未来価値」を創出する活動の推進

所蔵品に加え、奈良に伝わる**歴史資料、伝統技術や伝統芸能など多様な文化資源**について、その背景・意味・美的価値を読み解き、組み合わせるなど、**美術館ならではの視点から再編集**し、新たな価値として広げていく。



### 奈良県立美術館で取り組み始めている活動

#### 墨×現代アートによるリサーチプロジェクト

#### 伝統文化の現在 荒井恵子

#### 「いろいろのいろ墨のいろ ～奈良の100の墨をめぐる～」

会期：2025年4月5日～5月18日

会場：奈良県立美術館ギャラリー

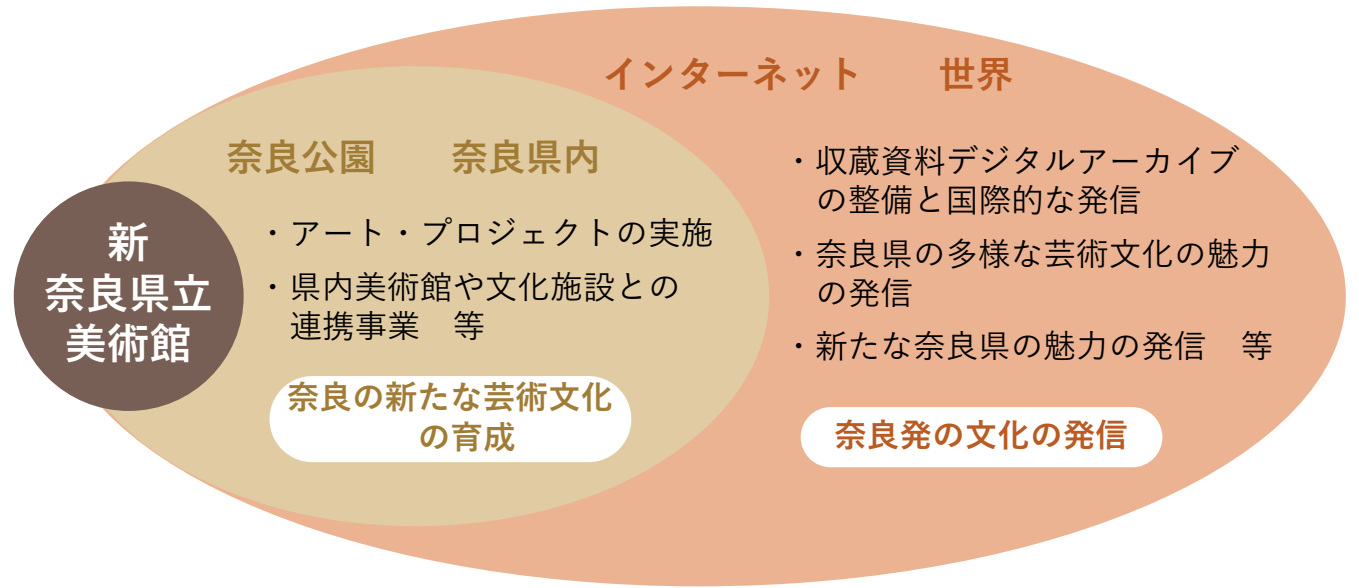
- ・「伝統文化の現在」をテーマに、アーティストによるリサーチ・プロジェクトを紹介。水墨画家であり現代美術作家の荒井恵子（1963年、東京生まれ、千葉県在住）は、墨運堂製の「百選墨」を使った作品制作をとおして墨による表現の可能性を追求している。
- ・荒井が墨づくりのさまざまな現場を訪れ、その場でつくられた墨を使って作品を制作。また、リサーチの過程をインタビュー動画や写真などによって紹介する。
- ・会期中には、奈良の墨づくり職人を招いて「にぎり墨」の体験会を実施したり、アーティストと評論家による対談などを実施するなど、これらをとおして「奈良の墨づくり」について考える。

# 奈良県立美術館再整備・基本理念見直しのポイント②新・奈良県立美術館の活動方針

## 「ひろげる」

### ②奈良独自のフィールドを活かし、美術館の外へ活動を展開

奈良公園や社寺、自然などを、新たな創作やアート・プロジェクトの舞台にして奈良の新たな芸術文化を育むとともに、インターネット上での多様な情報発信により奈良発の文化を世界へ届ける。



### 今後の事業実施方針

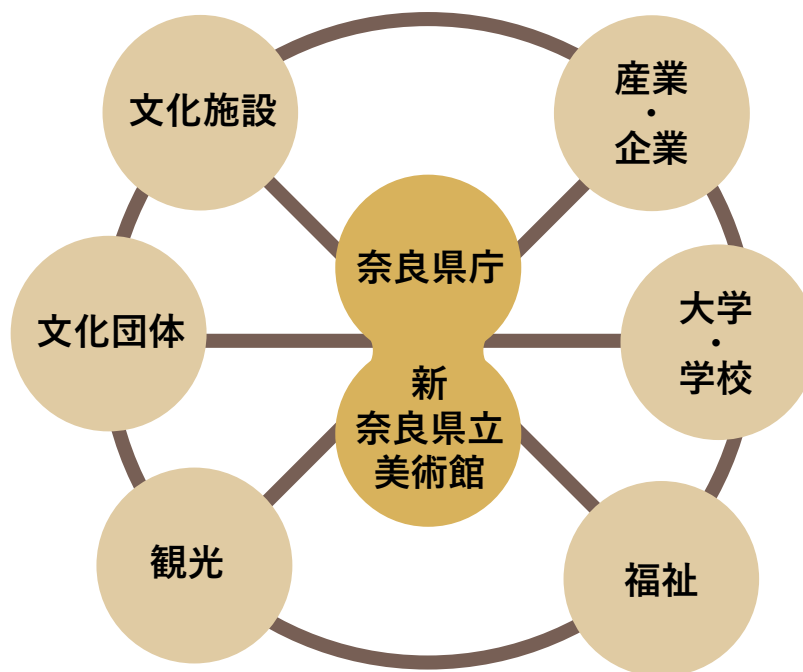
- 連携による美術館としての機能拡充（なら歴史芸術文化村と連携しアーティスト・イン・レジデンスを取り入れたアートプロジェクトの展開、奈良公園内の周辺施設や伝統工芸等と連携したアートプロジェクトの展開やガイドツアーの実施 等）
- 県内全域へのアート・フィールドの拡大、回遊性の向上（遊休施設等のコンバージョンによるサテライトミュージアム整備、県内の自治体や文化施設・文化団体等と連携した広域に及ぶアートプロジェクトやアウトリーチ事業の展開、県内全域をめぐる周遊プログラム 等）
- 奈良県の伝統文化と美術館のブランド力向上（奈良県のアートに関するポータルサイトとしての機能整備、世界に向けた美術館活動や収蔵資料に関する情報発信のためのデジタルアーカイブの拡充・活用、美術館の取組から生まれた新たな価値や作品の紹介 等）

# 奈良県立美術館再整備・基本理念見直しのポイント②新・奈良県立美術館の活動方針

## 「つなげる」

### ③多様な主体と連携し、ともに奈良の未来を創る活動

文化施設・大学・企業・産業・福祉・観光など**多様な主体と協働**し、価値創造や地域課題の解決に取り組む**「未来共創ハブ」**として、**奈良県庁と一体的に奈良の未来を生み出す社会装置**となる。



- 芸術文化による奈良県の政策構築や実現への寄与
- 文化施設や遊休施設等を活用したアートプロジェクトの展開
- 地場産業やスタートアップへのデザイン支援
- 観光における県内の回遊促進
- インクルーシブな社会づくりに向けた教育普及事業の展開
- 伝統芸能や伝統工芸の価値向上と発信
- 学校教育との連携
- 文化団体への支援・協働 等

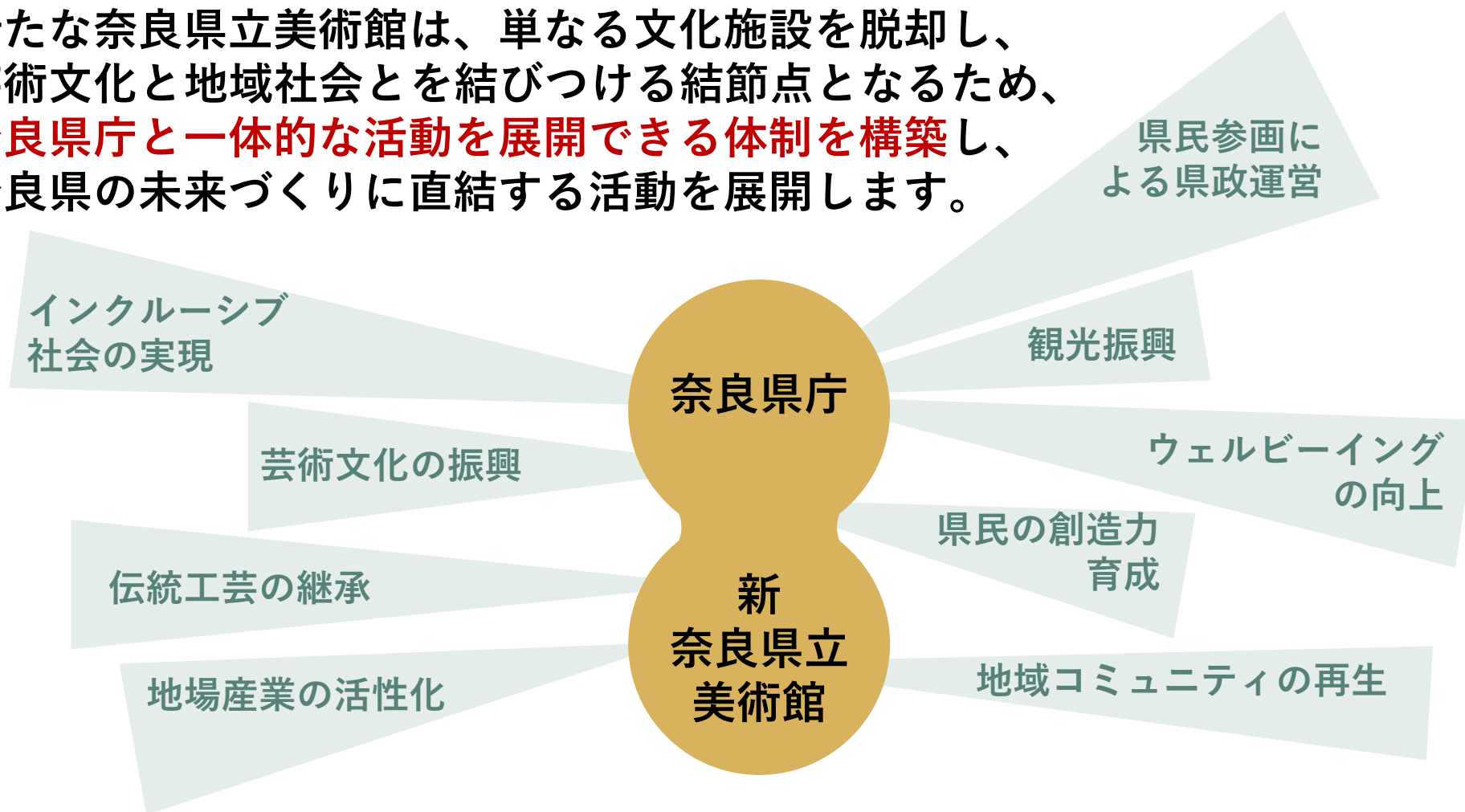
## 今後の事業実施方針

- **奈良県の創造力のエンジンとなる多様なプロジェクトの展開**（伝統文化・アート・食をテーマにしたラグジュアリーツーリズム、能や墨等の鑑賞・体験プログラム、奈良公園内や県内の文化資源等をめぐるアートガイドツアー、奈良県の事業を展示・発信する場としての美術館の活用 等）
- **県内外企業との連携・協働の促進**（実行委員会形式により企業参画を促すプロジェクト運営、アート思考による人材育成サービス事業、美術館や文化施設を芸術文化により付加価値を高めたレセプション会場として企業に提供 等）
- **上記を実現するためのアートを通じた人材育成**

## 奈良県立美術館再整備・基本理念見直しのポイント③新・奈良県立美術館の体制

### [基本理念実現のための新たな体制構築]

新たな奈良県立美術館は、単なる文化施設を脱却し、芸術文化と地域社会とを結びつける結節点となるため、**奈良県庁と一体的な活動を展開できる体制を構築し、奈良県の未来づくりに直結する活動を展開します。**



# I 美術館再整備の基本理念

---

## 1. 基本コンセプト

### 地域に根ざし、世界に開かれた美術館 + 奈良県の未来を創造する美術館

地域に根ざし

奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てる  
県民の芸術文化活動の場になる

世界に開かれた

奈良県民が多様な芸術文化と出会う  
奈良県の芸術文化を世界に発信する



奈良県の芸術文化から新たな価値を創出する

# I 美術館再整備の基本理念

## 2. 将来像

### 記録を記憶にし、未来の奈良県を想像し、 新たな価値を創造する美術館

#### 記録を記憶にし

奈良県立美術館は、地域の芸術や文化が表現された作品や資料を収集・保存しています。そして、地域における芸術文化は常に生まれ続けています。

この地で生まれた芸術文化を「記録」として保存し、「記憶」として伝えることを通して、これらが現在・未来の人々にとって想像力の源泉となり、新たな創造性を発揮する場となることを目指します。

#### 未来の奈良県を想像し

奈良県立美術館は、作品や資料に込められた想いや物語を伝えることで、これからの時代にふさわしい奈良県の姿を「想像し、未来へ向けたビジョンを描く力」を育む場となります。展覧会や教育普及活動などの活動を通して多様な表現や考え方に触れ、主体的に考え未来を創造する力を身につける機会を提供します。

#### 奈良県の新たな価値を創造する

奈良県立美術館は、芸術文化を活かして奈良県の「創造する力」を育む場となります。奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てるとともに、県内の文化施設アーティスト、企業等の様々な主体に対して、奈良ゆかりの芸術文化の価値を活かした支援を提供し、地域の活性化や新しい芸術文化の創出に寄与します。

## II 美術館の事業活動

### 1. 事業活動方針

[ポイント]

- より多くの県民の創造力を刺激し、奈良の文化的なポテンシャルを高める
- 奈良県と多様な芸術文化の交流により、新たな芸術文化を生み出す
- 奈良県の文化施設連携の中核を担う
- 美術館で展開する事業のプロセスをオープンにし、多様な立場の参画を促進する
- 奈良県の芸術文化から新たな価値を創出する

#### 5つの活動方針

活動方針 1	奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てる	【調査・研究、収集・保存】
活動方針 2	県民が多様な芸術文化と出会う	【展示】
活動方針 3	県民の芸術文化活動の拠点になる	【教育普及】
活動方針 4	奈良県の芸術文化を通じて世界につながる	【対話と連携】
活動方針 5	奈良県の芸術文化から新たな価値を創造する	【価値創造】

## II 美術館の事業活動

活動方針1 【調査・研究、収集・保存】  
奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てる

- ① 収蔵資料の調査・研究
- ② 奈良ゆかりの芸術文化に関する調査・研究
- ③ 奈良ゆかりの芸術文化の収集
- ④ 収蔵資料の管理

活動方針2 【展示】  
県民が多様な芸術文化と出会う

- ① 収蔵資料や借用資料による多様な展示
- ② 奈良ゆかりの展示

活動方針3 【教育普及】  
県民の芸術文化活動の拠点になる

- ① インクルーシブな教育普及事業
- ② 美術館事業全体のアーカイブ化と多様な活用の促進
- ③ 外部連携

活動方針4 【対話と連携】  
奈良県の芸術文化を通じて世界につながる

- ① 収蔵資料のデジタルアーカイブ構築
- ② 海外美術館との連携
- ③ 国内外のアーティストとの連携による、地域に根ざしたアートプロジェクトの展開
- ④ 奈良県内の美術館との連携

活動方針5 【価値創造】  
奈良県の芸術文化から新たな価値を創造する

- ① 奈良県の政策構築や実現への寄与
- ② 能や伝統工芸の価値向上と発信
- ③ 地場産業やスタートアップへのデザイン支援
- ④ ユニークベニューとしての活用、地域連携の促進
- ⑤ オリジナル商品の開発

## II 美術館の事業活動

### 活動方針 1 奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てる【調査研究、収集・保存】

必要な設備・人材・取組

#### ① 収蔵資料の調査・研究

- ・ 収蔵資料の新たな魅力を発見しその価値を高めるため、吉川観方コレクション、大橋コレクション、由良コレクション、高畑グループ、田中一光等の既存の収蔵資料の継続的な調査・研究を行う

- ・ 各コレクションに関連する専門分野の学芸員・研究者等の配置や連携
- ・ 学芸研究室、外部研究者等との共同研究のためのスペース
- ・ 資料閲覧室

#### ② 奈良ゆかりの芸術文化に関する調査・研究

- ・ 奈良ゆかりの芸術文化の価値や魅力を明らかにするため、多視点からの調査・研究を実施したり、研究者や県民が行う調査・研究との連携や支援等を行う

- ・ 奈良ゆかりの芸術文化に関連する専門分野の研究者等との連携
- ・ 外部研究者への調査・研究のためのスペースの提供、研究費等の助成

## II 美術館の事業活動

### 活動方針 1 奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てる【調査研究、収集・保存】

必要な設備・人材・取組

#### ③奈良ゆかりの芸術文化の収集

- ・吉川観方コレクション、大橋コレクション、由良コレクション、高畑グループ、田中一光等の既存の収集資料を補完するために必要な資料、奈良ゆかりの芸術文化を発信する上で不可欠な資料等を中心に新たな資料収集を行う
- ・新たに、能楽に関する資料（面、衣装、関連資料等）を収集する

- ・収集機能の拡充（トラックヤード・荷解室等の機能整備、収蔵庫の規模拡大等）
- ・学芸員による調査・研究機能の拡充：学芸研究室・書庫の整備
- ・資料収集費の確保

#### ④収蔵資料の管理

- ・収蔵資料を保存・継承するため、データ管理（受入、デジタルアーカイブへの登録等）と、安定した環境での保存環境の維持、虫菌害から文化財を守る文化財IPMへの取組を行う

- ・資料保存に適した温湿度管理ができる収蔵庫等
- ・収蔵資料データベース
- ・学芸員を中心とした収蔵資料管理体制
- ・文化財IPMへの取組体制

## II 美術館の事業活動

### 活動方針 2 県民が多様な芸術文化と出会う 【展示】

#### 必要な設備・人材・取組

#### ①収蔵資料や借用資料による多様な展示

- ・収蔵資料をはじめとする奈良県ゆかりの作品や世界の多様な美術等の展示を通して、鑑賞者に、奈良県の芸術文化を伝えるとともに、感性を刺激し新たな視野の獲得や創造性の向上に資するような体験を提供する

- ・多様な資料を展示でき、大型の展覧会から小規模な展覧会まで柔軟に対応できる展示室
- ・借用資料を展示するために必要な設備（トラックヤード、荷解室、一時保管庫（前室含む）、展示室（展示環境として適切な空間）、展示ケース、ガス消火設備等）
- ・可動展示壁 等

#### ②奈良ゆかりの展示

- ・県民や来訪者が奈良ゆかりの芸術文化にいつでも触れることができるよう、収蔵資料を活用した常設展示を行う

- ・収蔵資料の特性に合わせた常設展示室
- ・定期的な展示替えに対応するための学芸員や人員体制の確保 等

新規

#### ③美術の枠を拡大させる新しい切り口の展示

- ・歴史資料等の多様な分野の資料に対して、美術的な視点から価値を再定義することで、資料の価値や美術の概念を拡張させるような企画展を開催する

- ・多様な資料を展示できる展示室
- ・借用資料を展示するために必要な設備
- ・博物館等との連携体制
- ・学芸員や人員体制の確保 等

## II 美術館の事業活動

### 活動方針3 県民の芸術文化活動の拠点になる 【教育普及】

#### ①インクルーシブな教育普及事業

- ・多様な人に対して、より深く芸術文化に親しむ機会を提供するため、インクルーシブアートに取り組む組織や団体等とも連携し、多様なプログラムを展開する

[展開例] ・対話型鑑賞 ・多様な人々に対する創作活動の場や機会の提供  
・さわれる展示 ・体験型ワークショップ

#### 必要な設備・人材・取組

- ・多様なプログラムを展開するスペース（スタジオ、ワークショップルーム等）
- ・多様なプログラムを企画・運営する教育普及担当スタッフ
- ・館外組織等との連携を行う際の渉外担当スタッフ

#### ②美術館事業全体のアーカイブ化と 多様な活用の促進 新規

- ・企画展や教育普及プログラム等の活動成果等を県全体で活用できるよう、プログラムに関する詳細な情報を蓄積し、誰もが利用できるよう公開する

- ・活動成果を分かりやすくとりまとめデジタルコンテンツとして保管するアーキビスト
- ・情報を提供するための情報媒体（デジタルアーカイブ、報告書等）

#### ③外部連携 新規

- ・学校による活用機会として、学校団体の受入対応、出前授業、アーティストとの共同制作等を行う
- ・県内企業や県職員等に対して、「アート思考」等の芸術文化の創造性に関する学習機会を提供する

- ・学校団体への説明等を行うための講座室
- ・雨天時の昼食場所
- ・展示や体験のためのガイドやスタッフ
- ・企業等への研修の講師
- ・学習教材の開発

## II 美術館の事業活動

### 活動方針 4 奈良県の芸術文化を通じて世界につながる 【対話と連携】

必要な設備・人材・取組

#### ① 収蔵資料デジタルアーカイブの活用

- ・奈良県立美術館が有する美術作品や資料に関するデジタルアーカイブを公開する（館内、WEBサイト等）
- ・多様な主体が画像や事業活動成果等のコンテンツを活用できるように、情報提供のためのシステムを構築する

- ・収蔵資料データベースの維持・運用
- ・デジタルアーカイブや情報提供システムを維持・拡張するための専門人材の確保、協力体制の構築

#### ② 海外美術館等との連携 新規

- ・海外の美術館との資料の貸借による企画展の開催
- ・特定の美術館との提携による継続的な活動展開

- ・海外美術館との連携
- ・必要なスペックを備えた企画展示室、一時保管庫、搬入に関わる諸設備等
- ・共同での研究やプロジェクトを展開するための研究室や活動スペース

## II 美術館の事業活動

### 活動方針 4 奈良県の芸術文化を通じて世界につながる 【対話と連携】

必要な設備・人材・取組

#### ③国内外のアーティストとの連携による、新規地域に根ざしたアートプロジェクトの展開

- ・ 県民と国内外のアーティストとが参加して展開するアートプロジェクト
- ・ 奈良ゆかりの芸術文化に関わるアーティストや職人等を世界へ発信する企画展や国際的イベント等の展開
- ・ 海外アーティストや研究者により、奈良ゆかりの芸術文化を再定義するプロジェクト

- ・ アートプロジェクトのためのスペース
- ・ 奈良ゆかりの芸術文化に関わるアーティストや職人等とのネットワーク構築のためのスタッフ
- ・ 奈良公園等周辺エリアの諸施設と連携した活動展開のためのネットワーク構築のためのスタッフ

#### ④奈良県内の美術館との連携 新規

- ・ 県内各地の美術館と連携し、企画展やイベントの共同開催等により、奈良県の芸術文化を発信する
- ・ 県内美術館の中核として、幅広い事業活動に関する支援を行う

- ・ 県内の美術館とのネットワーク構築のためのスタッフ

## II 美術館の事業活動

### 活動方針5 奈良県の芸術文化から新たな価値を創造する 【価値創造】

必要な設備・人材・取組

#### ①奈良県の政策構築や実現への寄与 新規

- ・ 県政情報の発信メディアとしてのイベント開催
- ・ 県庁の諸部門との連携による活動展開
- ・ 県の事業に対するアーティストやデザイナーの紹介

- ・ 県庁とのパイプ役となるスタッフの配置、会議体の運営
- ・ 県内のクリエイティブ人材との連携を図るためのスタッフ

#### ②伝統芸能や伝統工芸の価値向上と発信 新規

- ・ 国内外のアーティスト等と連携した、伝統芸能や伝統工芸の新しい魅力づくり
- ・ 伝統芸能や伝統工芸に関わるイベント開催等による積極的な情報発信

- ・ アーティストと伝統芸能や伝統工芸を結びつけるための専門知識を有するスタッフ
- ・ 情報発信のためのスタッフ

#### ③地場産業やスタートアップへのデザイン支援 新規

- ・ 収蔵資料や研究成果、アーティストとのネットワーク等、美術館の持つ価値を活かし、地場産業や民間企業の商品やサービスの高付加価値化を支援

- ・ 奈良県産業部、産業振興総合センター等、県庁との連携を促進するスタッフ、会議体
- ・ 県内で活動するアーティストに関する情報収集

## II 美術館の事業活動

### 活動方針5 奈良県の芸術文化から新たな価値を創造する 【価値創造】

必要な設備・人材・取組

#### ④ユニークベニューとしての活用、 地域連携の促進 新規

- ・美術館施設の柔軟な貸出
- ・奈良県フィルムコミッションとの連携による情報発信

- ・施設貸出のためのスタッフ
- ・情報発信のためのスタッフ

#### ⑤オリジナル商品の開発 新規

- ・収蔵資料の画像を活かしたミュージアムグッズ
- ・収蔵資料のマルチプル（複製品）
- ・教育普及プログラムやイベントの成果を活かし、芸術文化に親しむための教材開発

- ・商品開発のノウハウを有するスタッフ
- ・教材等の開発・制作を行う専門スタッフ

# 補足資料

## 美術館の世代論

美術館の「世代」については、主に2種類の考え方がある

世代	A. 建築家・磯崎新による定義	B. 伊藤寿朗等による博物館学に基づく考え方
第1世代	<p><b>収蔵・展示のための“箱”としての博物館</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一部の王侯貴族のコレクションを一般公開する目的で開かれた美術館</li> <li>コレクションが展示の中心</li> <li>歴史のある建築を美術館として使用する場合が多い</li> </ul> <p>ex. ルーブル美術館</p>	<p><b>コレクション中心・権威的な博物館</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的 : 保存志向</li> <li>専門職員 : 番人</li> <li>建物 : 倉庫中心</li> <li>調査研究 : 行わない</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>収集・保存 : 開館したときのまま</li> <li>公開・教育 : 展示のみ</li> <li>運営 : 関係者だけが対象</li> </ul>
第2世代	<p><b>どのような作品にも対応する白い壁と可動壁を備えた展示空間を持つ美術館</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コレクションするだけでなく、企画展を展示の中心とする</li> <li>いわゆるホワイト・キューブと呼ばれる展示空間を備える</li> </ul> <p>ex. ニューヨーク近代美術館 (MoMA)</p>	<p><b>教育重視・分かりやすい展示へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的 : 公開志向</li> <li>専門職員 : 孤独な学芸員</li> <li>建物 : 展示室中心</li> <li>調査研究 : 学芸員の個人的興味と関心の範囲</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>収集・保存 : できるだけ集めておく</li> <li>公開・教育 : 展示中心</li> <li>運営 : 啓蒙的アピール</li> </ul>
第3世代	<p><b>その場でしか成立しない体験を提供する、サイト・スペシフィックな美術館</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>半永久的に展示される芸術作品と建築空間が一体となることで、場所の固有性を高める</li> <li>これまでの収集・展示することを主な目的とする美術館と差別化</li> </ul> <p>ex. 奈義町現代美術館 (磯崎が設計)</p>	<p><b>参加・体験・地域社会との関係重視</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的 : 参加・体験志向</li> <li>専門職員 : 専門職集団 (分業化とローテーション)</li> <li>建物 : 事業活動中心</li> <li>調査研究 : 社会的要請に応えた調査・研究、市民との共同調査・研究の組織化とルールづくり</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>収集・保存 : 新しい価値を発見しながら集める</li> <li>公開・教育 : 事業中心</li> <li>運営 : 対社会メッセージ</li> </ul>

参考：磯崎新『造物主義論』1996年

参考：伊藤寿朗「現代博物館考」『調査季報』94号、1987年他

## 第3世代までの事業活動

美術館の事業活動として定義されている〔収集・保存〕〔調査・研究〕〔展示〕〔教育普及〕に加え、第3世代では〔対話と連携〕の促進が求められている。

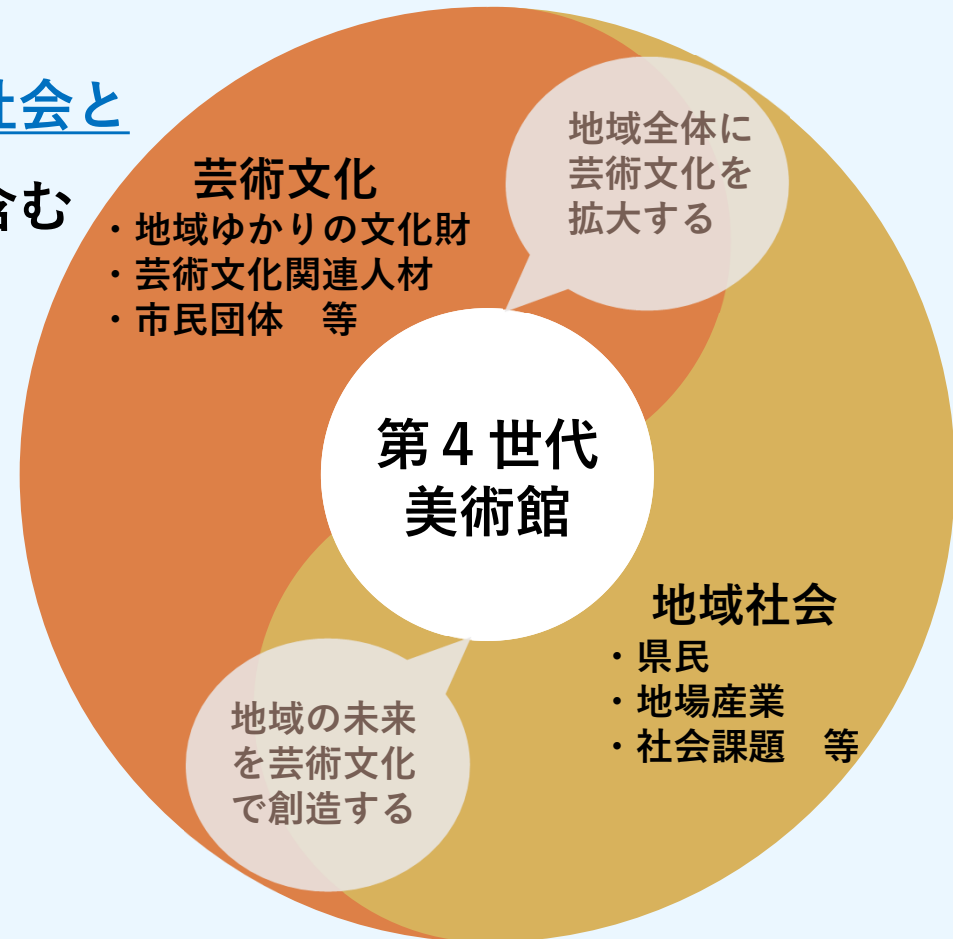
世代	事業活動				
	収集・保存 美術品を収集し、次世代に継承する	調査・研究 美術品の価値や意義を学術的に解明し、知を集積する	展 示 美術品を公開する	教育普及 調査研究成果を活かして学習機会を提供する	対話と連携 多くの人々の参画により美術館の活動を展開する
第1世代	●		●		
第2世代	●	●	●	●	
第3世代	●	●	●	●	●

## 奈良県が考える第4世代の美術館像

単なる文化施設を脱却し、芸術文化と地域社会とを結びつける結節点として、多様な人々を含む地域全体に波及効果を与える活動を展開し、新たな価値を創造することで地域の未来の創造に寄与する役割を担います。

また、展開する活動や形を更新し続けて、社会の変化や時代のニーズに対応していくことが求められます。

⇒ 「価値創造」「更新性・革新性」が第4世代の特徴



## 第4世代の事業活動

第4世代の美術館としてのあり方を実現するためには、第3世代の事業活動に加え、地域の未来の創造に寄与するため〔価値創造〕への取組が求められる。

世代	事業活動					
	収集・保存 美術品を収集し、次世代に継承する	調査・研究 美術品の価値や意義を学術的に解明し、知を集積する	展 示 美術品を公開する	教育普及 調査研究成果を活かして学習機会を提供する	対話と連携 多くの人々の参画により美術館の活動を展開する	価値創造 芸術文化と地域社会とを結びつける結節点として、新たな価値を創造する
第1世代	●		●			
第2世代	●	●	●	●		
第3世代	●	●	●	●	●	
第4世代	●	●	●	●	●	●

## 第4世代の具体的な事業活動 1

第4世代の美術館における主な事業活動として、以下のような展開が想定される。

### 収集・保存

美術品を収集し、次世代に継承する

- ①**資料収集**：購入、寄贈、寄託等による収集、収集方針に基づく選定
- ②**資料管理**：収集した資料に関する情報を台帳・データベースへの登録、文化財IPM※にもとづく維持管理  
※文化財を加害する虫菌害からの生物被害を薬剤だけに頼らず防除するため、清掃・温湿度調整などの日常的な環境管理を重視した対策。
- ③**保存・修復**：温湿度管理、防虫・防カビ修復処置、保存科学的調査

### 調査・研究

美術品の価値や意義を学術的に解明し、知を集積する

- ①**学術研究**：収集資料や関連分野に関して、専門分野に基づく研究活動、大学・研究機関等との共同研究
- ②**成果の発信**：紀要・論文・調査報告書の発行、学会発表、シンポジウム開催等

### 展 示

美術品を公開する

- ①**展覧会の開催**：収蔵資料や他館からの借用資料を使って、多様なテーマの展覧会を開催
- ②**展示解説**：展覧会のテーマや特定の作品に関してより深く理解するための情報を提供する（展覧会図録の発行、ギャラリートークや講演会等の開催等）

## 第4世代の具体的な事業活動 2

### 教育普及

調査研究成果を活かして  
学習機会を提供する

- ①**学習機会の提供** : 生涯学習や学校教育に向けた、講座の開催、学習プログラム等の提供等、収蔵資料や美術館活動のデジタルアーカイブの構築・公開
- ②**イベント等の開催** : 未就学児や障害者等を含む多様な人々に対して、芸術文化と親しむ機会を提供

### 対話と連携

多くの人々の参画により  
美術館の活動を展開する

- ①**多様な交流の促進** : 国内外美術館、アーティスト、市民や団体、地域、学校等の多様な主体が集う拠点として、多様な交流や対話を創出
- ②**協働による活動の活性化** : 多様な主体の参画により、美術館における活動や美術館を核とする活動の活性化を図る

### 価値創造

芸術文化と地域社会とを  
結びつける結節点として、  
新たな価値を創造する

- ①**美術館の資源の活用** : 施設や収蔵資料、調査研究の成果等、美術館が有する資源を活かした新たな事業の展開
- ②**地域の芸術文化の活用** : 美術館が中心となって、地域の芸術文化を活かした多様な主体による活動を促進することにより、新たな事業を展開